

糠床の歴史

糠床のルーツ、その起源は17世紀前半に遡る。ルーツ1は、旧豊前国を統治した小倉城主の細川忠興は1620年、名を三斎と改め、中津城に隠居した。後を継いだ二男の細川忠利が父の三斎にぬか漬けを送り、その美味しさに満足したという内容の親子の往復書簡がある（1626年／寛永3年）¹⁾。更に、日帳という日々の暮らしを記した資料にも同様の記載があり（1628年／寛永5年）²⁾、以下にこれらの史料からの一節を示した。ルーツ2は、長野の松本城城主の小笠原秀政（東京多摩出身）の二男である小笠原忠真は明石経由で1632年（寛永9）、小倉城に入封し、その際、糠床を持参したと伝えられていたが、これには文献的証拠はない。

参考文献

- 1) 東京大学史料編纂所：大日本近世史料、細川家史料二、五一六 十二月十二日書状、179（1970）。
- 2) 東京大学史料編纂所：大日本近世史料、細川家史料三、日帳、（1972）。

1626（寛永3） 細川忠興（ただおき）の息子の忠利（ただとし）に宛てた往復書簡

「ぬかみそ曲物（まげもの）一つ給候、
一段満足申候」
（息子から贈られた糠漬けの味に大変満足した様子）

1628（寛永5） 日帳（日々の暮らしを記した史料）

「寛永五年五月十九日 三斎（さんさい）
（忠興）へ茄子（なす）ぬかみそヲ進ム」
（息子が父へ茄子の糠漬けを送ったという記録）

松本市
信濃国(松本城) 糠漬け現存
糠炊き食文化無し

宇佐(豊前国)
ぬか漬けはあるが、
ぬか炊きはない

小笠原秀政(東京多摩出身)

忠真(秀政の次男)
ただかね

播磨国(明石)經由
小笠原忠真

豊前国(小倉城, 小倉藩)

細川忠興 築城(1602)
ただおき 豊前国統治

忠利 次男

小笠原忠真 (1632)

糠床

糠漬け

音筒(1626)

中津城(中津藩)

黒田官兵衛 築城
細川三斎 隠居(1620)
(忠興)